

環境保全の重要性訴え

大阪府 小学校で出前講座

【水野正博】大阪府と台北小学校で出前講座
和泉市、近畿運輸局は「いろいろな車大集合」
月三十日、和泉市立鶴山

を開いた。エコトラック（大阪府門真市）の池田治子社長と池田雅信取締役が講師を務め、環境保全に向けた取り組みの重要性について訴えた。



靴下を使った実験で、講師を務めるエコトラックの池田社長（左端）と池田取締役（右端）

府の交通需要マネジメント（TDM）施策の一環で、五年生百四十七人が参加。低公害車の概要説明に続き、四つのグループに分かれて電気自動車と燃料電池車の乗り心地を体験した。

排出ガス実験では圧縮天然ガス（CNG）車とディーゼル車、ハイブリッド車、ガソリン車のマフラーに靴下を取り付け、エンジン始動後の汚れやにおいをチェック。ディーゼル車の靴下が真っ黒になったことに驚きの声が上がった。

池田社長は「将来、みなさんが車に乗る時、きょうの実験を思い出して環境にやさしいものは何かを考えてほしい」と呼び掛けた。